

昨年度から研究内容として、「良質な問いへ」と「集団の交流・検討活動」を挙げています。4人の先生方に、研究内容についてのご自身の考え、実践を述べてもらいました。今一度研究内容を深める上でのきっかけにいただければ幸いです。

素朴な疑問・こだわりから『良質な問い』へ

札幌市立藻岩南小学校 熊谷 敏夫

1. 私の考える『良質な問い』とは

「問い」に良質なものとそうでないものがあるのだろうか。こちら側から子どもに与えただけでは、子どもにとっては「問い」にならないと思う。子ども自身が、自分でそのことに取り組んでみて生まれてくる素朴な疑問やこだわりこそが「問い」に向かう第一歩と考える。その一人一人の素朴な疑問やこだわりを教師が掘り起こしていく中から、『良質な問い』が生まれてくると考える。

私の考える『良質な問い』とは、子どもにとって具体であり、主体的な取り組みが生まれてくるもの、解決に向かう中で、一人一人の「数学的な見方・考え方」が磨かれてくるものとする。

2. 実践の中から

【4年 わり算】

「 $80 \div 20$ 」の答えは、絵や図、引き算などで4となった。

80の0を取って8、20の0を取って2と考えて、「 $8 \div 2 = 4$ 」となった。

ここで、「取った0を答えの4につけなくてもよいのか」という疑問を持つ子がいた。

私は、この疑問を大切に取上げた。まず、どういうことを言っているのかをみんなの前ではっきりさせた。そうすると、同じ疑問を持つ子がたくさんいた。子どもたちが考える「取った0」の扱いは、この問題だけでははっきりしないので私の方から3年生で学習した「 $80 \div 2$ 」を提示し、0の扱いについて考えていった。

【5年 小数のかけ算】

「 2.5×1.5 」の計算の仕方について考えた。そうすると、かけられる数を10倍して25、かける数を10倍して15として、「 25×15 」の整数の形で計算して375。しかし、 $\times 10$ 、 $\times 10$ をしているので、答えの375は $\div 100$ をして3.75となることがはっきりしてきた。

筆算の形でもこの考えと結びつけながら数題の問題に取り組んだ。

次に、「 2.35×1.5 」を筆算の形で取り組んだ。

そうすると、次のような形に分かれた。

①	②
$\begin{array}{r} 2.35 \\ \times 1.5 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 2.35 \\ \times 1.5 \\ \hline \end{array}$

ここで、それぞれの考えを聞いてみると「小数の計算では位をそろえないといけない」と強調する子が多く見られた。私は、このことを大切に取上げ、その考えの裏にある思いを掘り起こしていき、その後でみんなは、もう一度、「小数のかけ算の筆算の仕方」についてじっくり考えていった。

3. おわりに

私たちは今までこちらの都合で考えさせることを決めていなかったのだろうか。私は、一人一人の素朴な疑問・こだわりをじっくり聞き、みんなに向けていく取り組みを大切にしたい。

